北多摩西ニュース
No.6
国分寺市光町1-40-12
Tel 042-576-1161(代)
Fax 042-575-0529
E-mail：kitanisi@crux.ocn.ne.jp
ホームページ：http://kitanisi.org/
東京都教職員組合北多摩西支部情宣部
全教職員配布

2018 都労連秋季年末闘争

3年連続ベアなし、わずかな一時金上乗せにごまかされるな!

統一行動日は、11月15日(木)予定

10月12日、東京都人事委員会は、8月の人事院勧告を受けて給与などに係わる勧告を都知事、都議会に向けて勧告しました。初任給のみ引き上げて、他は全く引き上げなし。一時金だけ0・1月それも勤勉手当で支給という不公平な内容になっています。定年延長が間近な昨今、再任用、非常勤に係わる処遇改善が求められますが、いずれも改善案無しと言った状態です。

一方都教委は中教審「働き方改革」を受けて教員の勤務実態を少しでも緩和するために、「変形労働時間制」を検討し、近い将来本格実施を視野に入れています。

これが実施されると限定四項目以外ないはずの超過勤務を認めた形になり、教員の勤務は益々過酷になってきます。

都労連の当日行動は11月15日(木)に予定されています。当日の情報は確実につかみましょう。

2018東京都人事委員会勧告の骨子

◆例月給
- ○ 公民較差（108円、0.03%）較差が極めて小さいため、初任給、初任層のみ引き上げ（来年４月から）

◆一時金
- ○ 0.10月引き上げ、年間4.60月（再任用は0.05月引き上げ、年間2.40月）引き上げ分は、勤勉手当に配分

◆再任用職員・非常勤職員
- ○ 再任用職員の給与水準の改善は言及なし
- ○ 非常勤職員の処遇改善については勧告せず、会計年度任用職員制度の導入に向けての検討のみ言及

◆今後の課題
- ○ 高齢層職員の給与
- ○ 職務給の更なる進展
- ○ 能力・業績を反映した給与制度の更なる進展

府中市小学校教員の職場復帰を勝ち取る会　学習交流会

日時　12月22日(土)
午後1時30～
場所　府中市民活動センター
プラッツ第2会議室
(ル・シーニュ6F) 042-319-9703(代)

※京王線府中駅から徒歩１分(駅直結)
JR南武線、武蔵野線府中本町駅より徒歩10分

11月15日(木) 当日早朝の号外配布体制

府中／支部または地区協の指定場所で配布
国分寺／支部で配布
国立／支部で配布
立川／支部または立川駅で配布
昭島／未定
東村山／久米川駅で配布
東大和／地区協役員が配布
武蔵村山／地区協役員が配布
※北西ホームページでもアップします。

学校の噂

今年は学習発表会の年。劇の練習が始まりました。▼実行委員を中心に取り組みのスローガンを話し合い、「みんなで協力し、劇を通して仲間の大切さを伝えよう！」に決定。練習も実行委員のポイント説明で始め、成果や感想の発表で終わります。▼とはいえ、舞台に上がり一生懸命練習している横で追いかけっこを始めるいつもの三人。「芸人役、どんな芸するの？」「知らねーよ、そんなの」「先生の投げる輪を取ってごらん、回転するよ！」「すごい、運動神経いい！」ゆるみ始めた子どもを前に「6年生の劇は〝とり〟なんだよ！一年生のキラキラした目……」必死に演じているのは私たち教師!?▼どっと疲れた帰りの会、「先生、お誕生日おめでとう！」折り紙で作った袋の中に、なんとも不揃いな手紙が27枚。クラス全員分です。▼さあ、優しい柔らかな心で、明日からも練習に取り組もう。本番で子どもたちと味わう感動を目指して。（M・S）

〝きまり〟でどんな子どもたちに育てたいの？
～あらためて考えてみませんか、子どもの見方・とらえ方～

10月12日、北多摩西教育センター主催で、実践講座「何か変、子どもの見方・とらえ方」を開きました。忙しいなか、20名を超す人たちが集まり、事例を元に話し合いました。

「○○スタンダード」で育てたいものは？

各地や学校で「○○スタンダード」が広がっています。学校で過ごすための〝きまり〟が細かく決められています。それらの中に、
・無言で清掃する。
・給食は全員前を向き、無言で食べる。
というものがありました。この〝きまり〟を見てどう感じますか？学校によって子どもの状況が違いますが、私たち自身のふだんの生活を顧みたときに、不自然に思える〝きまり〟はありませんか？

「○○スタンダード」などの〝きまり〟で、どういう子どもに育てていきたいのか、それを考える必要があるのではないでしょうか。

そもそも子どもは多様で、型にはまりきれない子どももいます。そういう子どもの理解と対応はどうするのか、その話し合いは十分でしょうか？

「前言後礼」って何？

「前言後礼（言葉を先に言い、その後で頭を下げる）」というあいさつの仕方が、この数年間で多くの学校に広がっています。地域の方との交流会等で話すと、すぐには理解されません。つまり、ふだんの生活ではあまり見ないあいさつの仕方です。

あいさつは時と場合によっていろいろあります。一つの形だけが子どもたち指導されていることはないでしょうか？

忙しさのなかで、ちょっと立ち止まって

朝から晩まで休みなく働かざるを得ないなかで、子どもの見方・とらえ方、そして指導が画一的になってはいないでしょうか？北西教育センターではこれからも論議を深めていく予定です。

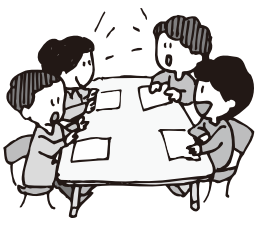
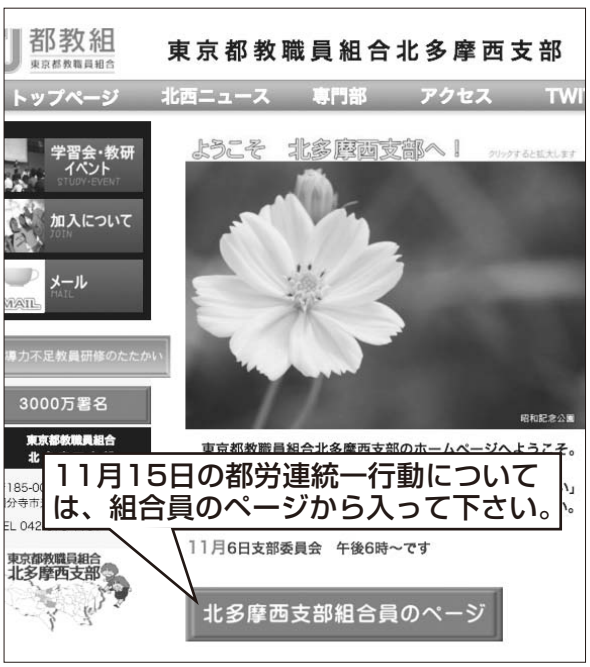
北多摩西支部では昨年度より、教育問題を地域の人たちと考えようと、地区懇談会の実施をすすめています。10月24日に各地域の代表と地区協役員が集まり、懇談会の交流を行いました。会では各地域の交流ばかりではなく、教育の問題についても意見が深められました。

多すぎる夏休みの宿題

ある高校では夏休みの宿題が多く、その内容も英文の書き写しを５回などといった単純作業で、生徒たちがそれに追われている実態が報告されました。

都もが知っている小学校での〝荒れ〟

都教委のホームページを見ると、毎年２割前後の学校で小学校１年生の「不適応状況が発生」していることが分かります。そのうち、約６割が指示が聞けなかったり、勝手に教室から出て行く等座っていられない状況であることが載せられています。

問題なのは、こういう状況を都教委は分かっているのに、十分な支援が学校になされておらず、逆に道徳の教科化や英語（活動）の拡大などで、現場はますます忙しくなっている、と指摘されました。

地域に出て学校の状況を訴え、地域の方と教育について広く語り合うことの重要性が感じられる会となりました。